

八幡山

近江八幡の北側にそびえる標高 272m の八幡山は、町の歴史に重要な役割を担ってきた。近江八幡は、1585 年、豊臣秀次（1568-1595）が八幡山に八幡山城を築き、城下町として誕生した。秀次は天下統一を目指す戦国武将・豊臣秀吉（1537-1598）の甥で後継者であり、城は近江国（現在の滋賀県）の豊臣家の勢力基盤になることを意図していた。

秀次は叔父の命により、城下の八幡町（現・近江八幡市）を整備し、商人を住まわせ、商人ギルドの影響を排除した「楽市楽座」地帯として商業の中心地とした。また、八幡堀を掘らせ、城の防御と物資輸送のための運河の役割を持たせた。しかしその後、秀吉が甥を怪しみ、秀次は失脚した。2 年後には自ら命を絶たれ、八幡山城は廃城となった。しかし、町は繁栄を続け、貿易や商業の重要な中心地となった。

秀次の死後、悲嘆にくれた母トモは尼僧となり、息子を偲んで瑞龍寺を建立した。この寺はもともと京都にあったが、1961 年に現在の八幡山山頂に移された。

山頂へは、八幡山ロープウェーを利用して 4 分ほどで行くことができる。八幡山城の石垣が一部残っており、瑞龍寺はその本丸跡にある。ロープウェイ駅から瑞龍寺までは林道が整備され、展望台も設置されている。西側の展望台からは西の湖や近江八幡の水郷、近江八幡市街が一望でき、北側からは琵琶湖や比良山系が見える。山頂の散策は、景色を眺めながらお寺を参拝して 30 分程度でできる。